第２期　伊達な地域創生戦略とは

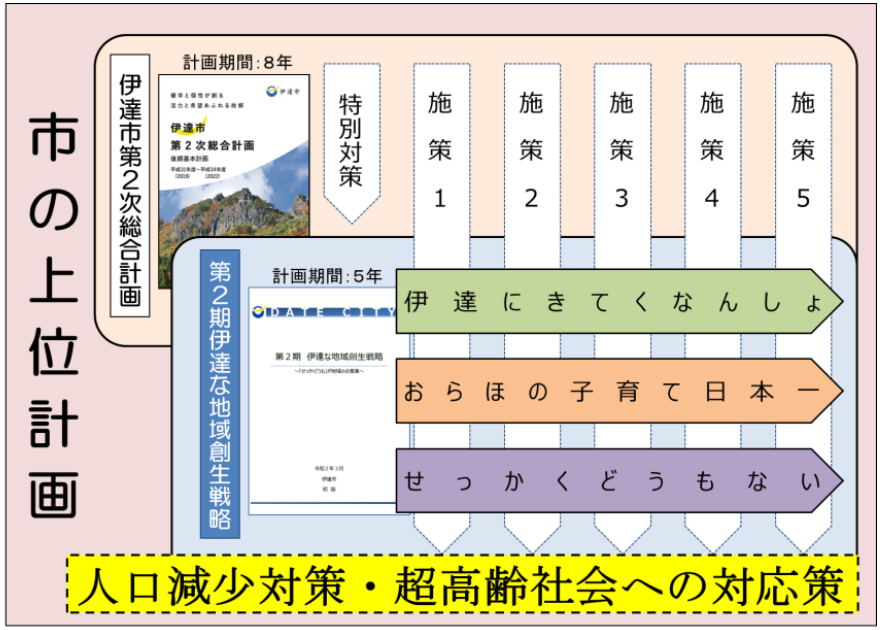
伊達魂

➢ 人口減少と超高齢社会に対応し、地域活力を維持していくため、令和2（2020）年度から令和6（2025）年度までの5年間を計画期間とする「第2期　伊達な地域創生戦略」を策定しました。

伊達な地域創生戦略策定の背景

- 第1期伊達な地域創生戦略は、平成27（2015）年度から令和元（2020）年度を計画期間とし、伊達市第2次総合計画の中から地方創生に関する課題や施策を抜き出し、3つの基本目標の下、地域資源を磨き、魅力ある地域をつくることで、急激な人口減少に歯止めをかけることを目的に策定しました。
- 人口減少が続く中、第1期戦略の効果検証を踏まえ、引き続き対策を進めるため、「伊達市第2次総合計画」を基本とし、今後5年間の新たなまちづくりの指針として第2期戦略を策定しました。

《戦略位置付けのイメージ》



伊達市の地域創生が目指す姿

「健幸と個性が創る 活力と希望あふれる故郷（ふるさと）伊達市」

第１期　伊達な地域創生戦略の成果と課題

第１期戦略期間の人口動向等

- 人口動向は低位パターン（現状の趨勢で推移）での推移を続けています。
- 平成27（2015）年から平成30（2018）年の人口移動の累計をみると、年少人口（0歳～14歳）は329人の転入超過となり、県内で最も転入超過の多い自治体となっています。
- 東日本大震災年直後には大幅な転出超過となりましたが、平成26（2014）年以降は100人から250人程度の転出超過で推移しており、社会減が落ち着いてきました。
- 観光客の入込状況については、「道の駅伊達の郷りょうぜん」や「まちの駅やながわ」の開設などにより平成30年度以降大きく増加しています。

第１期戦略期間の課題

- 合計特殊出生率は、独自推計を行った結果、平成25年度に公表された水準と同程度の「1.28」で推移しています。
- 若年層の女性の転出が多く見受けられ、一度転出すると再転入しない傾向が継続しています。

第２期　伊達な地域創生戦略における基本的な考え方

➢ 第2期戦略策定にあたり、市長を本部長とする「伊達市地域創生本部」と、産業界・金融業界・学識経験者等で構成する外部組織「伊達市地域創生有識者会議」による効果検証を行っています。

第1期戦略の効果検証

- 第１期戦略に基づく取り組みにより、人の流れや雇用の創出に良い影響が示され始めていること、子育て世代が住みやすいまちづくりに積極的に取り組んでいること、超高齢化社会に対応するための基盤が整備されたことなど、短期間の中でも一定程度の成果を挙げたことは評価すべきであり、今後も長期的な視点で第１期戦略に掲げた目標の達成に継続して取組みつつ、国及び福島県が示す新たな視点を踏まえて事業の改善、工夫を図り第２期戦略策定に活かすというものです。
- このことから、第２期戦略では次の基本的な考え方を基に、各プロジェクトごとに情報や課題を共有し部局間連携を強化することでより高い効果を出し、人口減少の抑制を目指します。

第2期戦略の基本的な考え方

「継続を力にする」という姿勢で、全体の枠組を引き続き維持する

- 安心して働き、安定した収入を得て生活ができるとともに、安心して子どもを産み育てられ、安心して年が取れる社会の実現を継続して目指すため、3つの基本目標を引き続き掲げる。

第２期　伊達な地域創生戦略に掲げる基本目標

伊達魂

基本目標１	伊達にきてくなんしょ　しごとをつくり、新しいひとの流れをつくる	
プロジェクト	1-1 新しいしごと・雇用創出プロジェクト	⇒　企業誘致推進事業　等
	1-2 地域特産を活かした産業振興プロジェクト	⇒　農業後継者育成支援事業　等
	1-3 様々な交流による移住定住推進プロジェクト	⇒　移住・定住促進事業　等 空き家対策事業　等

基本目標２	おらほの子育て日本一　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
プロジェクト	2-1 結婚・出産・子育て応援プロジェクト	⇒　伊達市版ネウボラ事業　等
	2-2 社会に貢献する人材育成プロジェクト	⇒　月舘学園小中一貫教育推進支援事業　等 通学合宿体験活動事業　等
	2-3 ふるさとへの愛着と誇り醸成プロジェクト	⇒　高校生伊達な〝ミライ〟創出プロジェクト事業　等

基本目標３	“せっかくどうもない”　生きがいをもって暮らす地域共生社会をつくる	
プロジェクト	3-1 元気な市民の生涯活躍プロジェクト	⇒　健康運動習慣化支援事業　等
	3-2 ともに紡ぐ協働のまちづくりプロジェクト	⇒　地域包括ケアシステム推進事業　等
	3-3 連携による持続可能な地域づくりプロジェクト	⇒　地域公共交通網形成計画策定・推進事業　等

安全・安心
～次世代につなぐ安心の輪～

伊達市
DATE CITY